

## 第4回リニア駅周辺整備検討会議 次第

平成28年2月12日(金) 15時00分～  
飯田市役所 C311～C313 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 第3回リニア駅周辺整備検討会議の報告 [資料 1]

(2) 伊那谷自治体会議の報告

(3) 「駅周辺の住みやすさを考える会」(仮称)について [資料 2]

4 協議事項

(1) 今後の進め方について [資料 3]

(2) 各部会の報告と検討内容について

1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会 [資料 4]

2) 魅力発信部会 [資料 5]

3) 環境・景観部会 [資料 6]

5 閉 会



## 第4回リニア駅周辺整備検討会議 出席者名簿

### 委員

	氏名	役職
学識経験者	小澤 一郎	(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長
	瀬田 史彦	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授
	大西 達也	(一財) 日本経済研究所調査局長 兼地域未来研究センター副局長
リニア駅計画地域の代表	北原 三三	座光寺地域自治会長
	岡田 忠義	上郷地域まちづくり委員会副会長
	小平 茂樹	上郷北条まちづくり委員会会長
各種団体の代表者	柴田 忠昭	飯田商工会議所会頭
	矢澤 輝海	みなみ信州農業協同組合長
	萩本 範文	長野県経営者協会飯田支部長
	中島 一夫	飯田観光協会会長
		信南交通(株)代表取締役社長 (公共交通関係機関)
鈴木 佳史	長野県タクシー協会下伊那支部長 (公共交通関係機関)	
行政機関	安藤 嘉夫	長野県建設部リニア整備推進局長
	有賀 秀敏	長野県下伊那地方事務所長
	水間 武樹	長野県飯田建設事務所長
	唐澤 直樹	上伊那広域連合事務局リニア推進課長 (代理出席)
行政機関 (飯田市)	佐藤 健	飯田市副市長

### 部会

魅力発信部会長	中島 一夫	飯田観光協会会長
---------	-------	----------

### オブザーバー

事業主体	太田垣 宏司	東海旅客鉄道(株) 中央新幹線推進本部中央新幹線建設部名古屋建設部担当課長
------	--------	--

### 飯田市関係部長

飯田市	菅沼 文秀	総務部長
	今村 和男	総合政策部長
	竹前 雅夫	市民協働環境部長
	高田 修	産業経済部長
	木下 悦夫	リニア推進部長
	今井 清隆	建設部参事兼リニア推進部参事



## 第3回リニア駅周辺整備検討会議の報告

日時：平成27年12月22日 9:00～

場所：飯田市役所 第2委員会室

### 1 会議内容

- (1) 第2回検討会議の内容について
- (2) 各部会の経過について
- (3) 魅力発信部会の検討内容について
- (4) 駅周辺整備の整備範囲について

### 2 主な意見の概要

#### (1) 全体事項

- ・ どのような人が利用するかのご想定について、いずれ再度調査したほうがよい。
- ・ リニア開業時の交通手段については、予測できない面があるので、基本計画を策定後も、柔軟な対応が必要である。
- ・ 飯田市が環境モデル都市であることを踏まえ、検討していく必要がある。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した駅周辺整備をしていく必要がある。

#### (2) 会議等の運営方法

- ・ 「環境・景観部会」、「交流人口拡大部会」も早めに立ち上げてほしい。
- ・ まちづくりのアイデアなどを広く取り入れる仕組みを考えてほしい。
- ・ いろいろな計画事例のプロセスも参考にすることが必要である。

#### (3) 整備区域

- ・ 施設配置はイメージであり、今後具体的に検討する必要がある。
- ・ コンパクトな駅周辺整備をお願いしたい。
- ・ 専門的な視点から見てもコンパクトな整備区域であると思う。
- ・ 今回示されたのは平面的なものであるが、今後立体的に検討する必要がある。
- ・ 中心市街地との役割分担を考える必要がある。
- ・ 広場や平面駐車場などは、防災施設などとの複合的な利活用が考えられる。
- ・ 整備区域内外の計画をすり合わせていく必要がある。
- ・ 整備区域外の土地利用も重要な課題である。

#### (4) 地域住民への配慮

- ・ 基本構想の中で「地域の住みやすさに配慮した駅周辺整備を進める」と謳われているが、地域住民のことを考える組織がない。については、行政と地域が一緒になった、地域の住みやすさ、地域コミュニティ維持などを検討する組織をつくって

ほしい。

- ・土地利用計画における重点協議区域は、地域住民にとって非常に重要である。
- ・地域住民が利活用できるような駅周辺整備をしてほしい。

#### (5) J R 飯田線との結節

- ・どのような場で検討していくか決める必要がある。
- ・J R 東海（株）と協議し、うまく結節ができるようにしてほしい。
- ・外国人は鉄道利用者が多いので、その点を考慮してほしい。

## 「駅周辺の住みやすさを考える会」（仮称）の設置について

### 1 設置の背景

- (1) 「リニア駅周辺整備基本構想」における、「地域の住みやすさに配慮した駅周辺整備を進める」ことの位置づけ。（基本方針1の取組5）
- (2) 「基本構想」での記載内容
  - ① 駅利用者利便施設や魅力発信施設には住民の日常的な機能にも配慮した機能を導入
  - ② 周辺の住宅地や農地の無秩序な開発を抑制するなどして、地域の住みやすさに配慮
  - ③ 移転をお願いすることになる居住者の移転先の確保に向け、地元住民の意向を把握しながら、様々な対応を視野に検討

### 2 設置の目的・構成

- (1) 目的  
駅周辺整備に伴う住環境の変化に対し、駅周辺整備の区域内のみならず、上郷北条地区内あるいは上郷地域全体を展望した上で、「地域の住みやすさ」を視点に、大局的な議論を行うことを目的に設置する。
- (2) 構成  
北条地区：2～3人  
上郷地域：2～3人  
関係機関：飯田市（リニア推進部・建設部）  
必要に応じて、長野県やJR東海にも出席を願う

### 3 検討項目

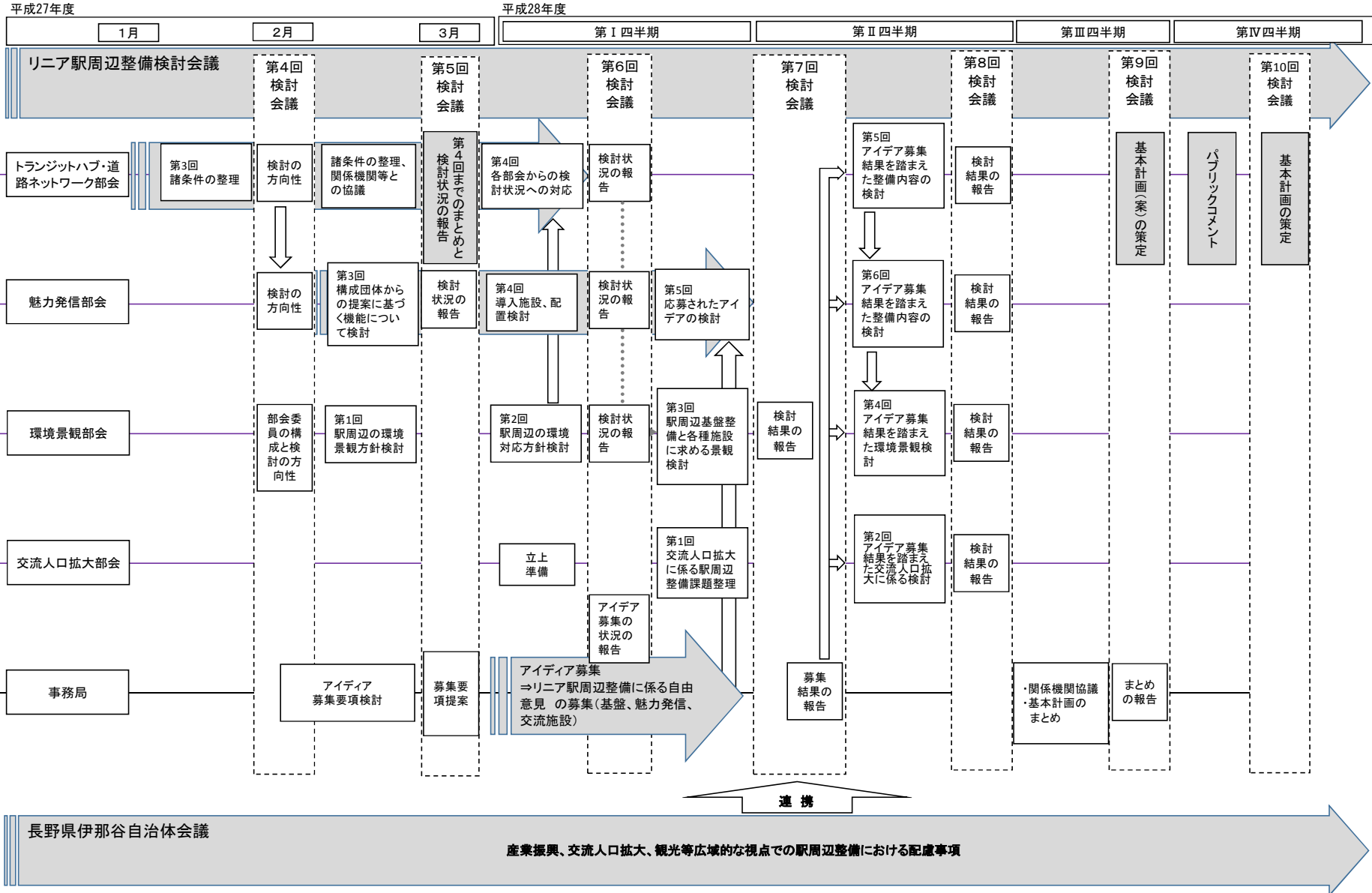
- (1) 北条全体の「住みやすさ」に配慮する上での視点の検討
- (2) 土地利用の方針との整合性
- (3) リニア駅周辺整備事業及び関連道路整備との調整連携
- (4) 上郷地域全体の観点からの検討





# 平成27年度～28年度検討工程

資料 3-1





## リニア駅の周辺整備・まちづくり等のデザインに関するアイデア募集について（案）

### 1 目的

リニア駅周辺整備検討会議においては、4つのテーマごとに部会を設定し、専門的な検討を進め、平成28年度中にリニア駅周辺整備基本計画（案）をまとめることとしている。本基本計画の策定の参考とするため、リニア駅の周辺整備・まちづくり等のデザインに関するアイデア募集を行う。

～ねらい～

- ・市民及び各種団体等の意見を広く聴く機会を設ける（居住地、年齢、専門性等を問わず）。
- ・提出された様々なアイデアについて各部会で検討し、部会内での議論で具体化を図る。

### 2 募集内容等

自由な発想でリニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等のデザインに関するアイデアを募集する。

文字・図面・絵等、表現方法は問わない（ただし、図面・絵の場合は説明を記入）。

リニア駅周辺整備基本構想での目指す姿「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」を踏まえたアイデアを求めたい。

～例～

- ・「伊那谷らしさ」を表現するアイデア（「伊那谷らしさ」とは何か？）
- ・リニア駅周辺にあってほしい機能
- ・リニア駅に降り立ったときのイメージ
- ・リニア駅周辺で行っていると楽しいと感じる活動、イベント など

### 3 提出されたアイデアの取扱い

- ・提出されたアイデアは全て検討の対象とし、リニア駅周辺整備検討会議で受け各部会へ割り振る（重複も有り）。各部会において内容の評価や検討等を行う。
- ・各部会での検討結果は、リニア駅周辺整備検討会議へ報告し、部会間でイメージの共有を図るとともに更に検討・議論を重ね、まとめる。
- ・提出されたアイデアは公表する。ただし、個別に回答はしない。

#### 4 募集の方法（案）

##### (1) 対象区域

ア 駅周辺整備区域（約 6.5ha）

イ 駅周辺整備区域近郊

##### (2) 期間

平成 28 年〇月〇日～平成 28 年〇月〇日（約 1 ヶ月）

##### (3) 提出先

事務局 飯田市リニア推進部 linear@city.iida.nagano.jp

##### (4) 提出方法

電子メール、郵送 又は 持参

##### (5) 提出様式

A 4 用紙 2 枚（両面可）又は A 3 用紙 1 枚（両面可）

##### (6) 参考資料（詳しくは、下記のホームページまで）

ア 長野県リニア活用基本構想

<http://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/kurashi/kotsu/linear/documents/kihonkousou.pdf>

イ リニアバレー構想(骨子案)

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/21171.pdf>

ウ リニア将来ビジョン

<http://minami.nagano.jp/library/linear-meeting/>

エ リニア駅周辺整備基本構想

オ リニア駅周辺整備検討会議におけるこれまでの検討資料

「リニアのまちづくり・いいだ」<https://www.city.iida.lg.jp/site/iida-linear/>

## トランジットハブ・道路ネットワーク部会の経過、今後の予定について

## 1 経過

## (1) 2月5日(金) 第3回トランジットハブ・道路ネットワーク部会

## 1) 協議事項

- ① 今後の進め方について
- ② 諸条件の整理表について
  - ・ 想定される動線等、技術的な条件についての整理

## 2) 協議における主な意見

- ① 地理的な現況条件、特に高低差が大きい、徒歩によるアクセスでは大きく影響する。  
その条件が一般の方にはわかりにくいので、縦断図(横断図)、場合によっては模型等によりわかりやすくする必要がある。
- ② 徒歩動線について、車道利用ばかりでは無く、周辺道路の歩道からのアクセスなど想定し、もう少し幅広く検討する必要がある。
- ③ 徒歩によるアクセスでは、徒歩圏を明確にする必要がある。
- ④ アクセスマルチルートだけではなく、そのルートごとの量があるはずなので、それを表現できると良い。
- ⑤ 検討の結果として、一般の方にもわかりやすく技術的条件をまとめてもらいたい。

## 2 今後の予定

## (1) 今後の検討の方向性

## 1) 駅周辺の動線について

- ① 駅南側道路、駅北側道路、南北道路の有無を考慮して合理的な動線を整理する。
- ② 徒歩によるアクセス圏を考慮して、合理的な動線を整理する。

## 2) 技術的条件について

- ① 地理的条件等からの技術的条件を明確化する。



## 第2回魅力発信部会の内容（要旨）

### 1 説明報告内容

#### (1) 第3回リニア駅周辺整備検討会議における協議内容の報告

- ①第2回リニア駅周辺整備検討会議、トランジットハブ・道路ネットワーク部会、魅力発信部会の開催状況について確認
- ②駅周辺整備を検討するエリア約7.8haのうち、整備区域（案）として駅北約3.8ha、駅南約2.7haの約6.5ha（リニア駅部の面積を除く）、土地利用計画における重点協議区域として約1.3haを想定していることを確認

#### (2) 第1回部会における検討内容について確認

- ①「リニア駅周辺整備基本構想」における魅力発信施設の位置づけの確認
- ②トランジットハブ・道路ネットワーク部会の検討状況についての報告
- ③求めるもの・期待するものなどについての主な意見についての確認

#### (3) 魅力発信の基本的な考え方について確認

- ①「リニア駅周辺整備基本構想」における目指す姿と基本方針について説明
  - ・目指す姿（基本的な理念）は「信州・伊那谷（ローカル）の個性で世界（グローバル）を惹きつけ、世界へ発信する玄関口（ゲートウェイ）」
  - ・信州や伊那谷が持つ豊かな個性を大切にし、更に高めることで世界を惹きつける魅力を育み、世界へ発信していくことを目指す
  - ・地域のコミュニケーションの場ともなるオール信州の魅力発信施設として備える機能の例として、観光情報等の提供・発信施設、地域住民や来訪者の利用を想定した交流施設、地域の物産販売施設などを想定

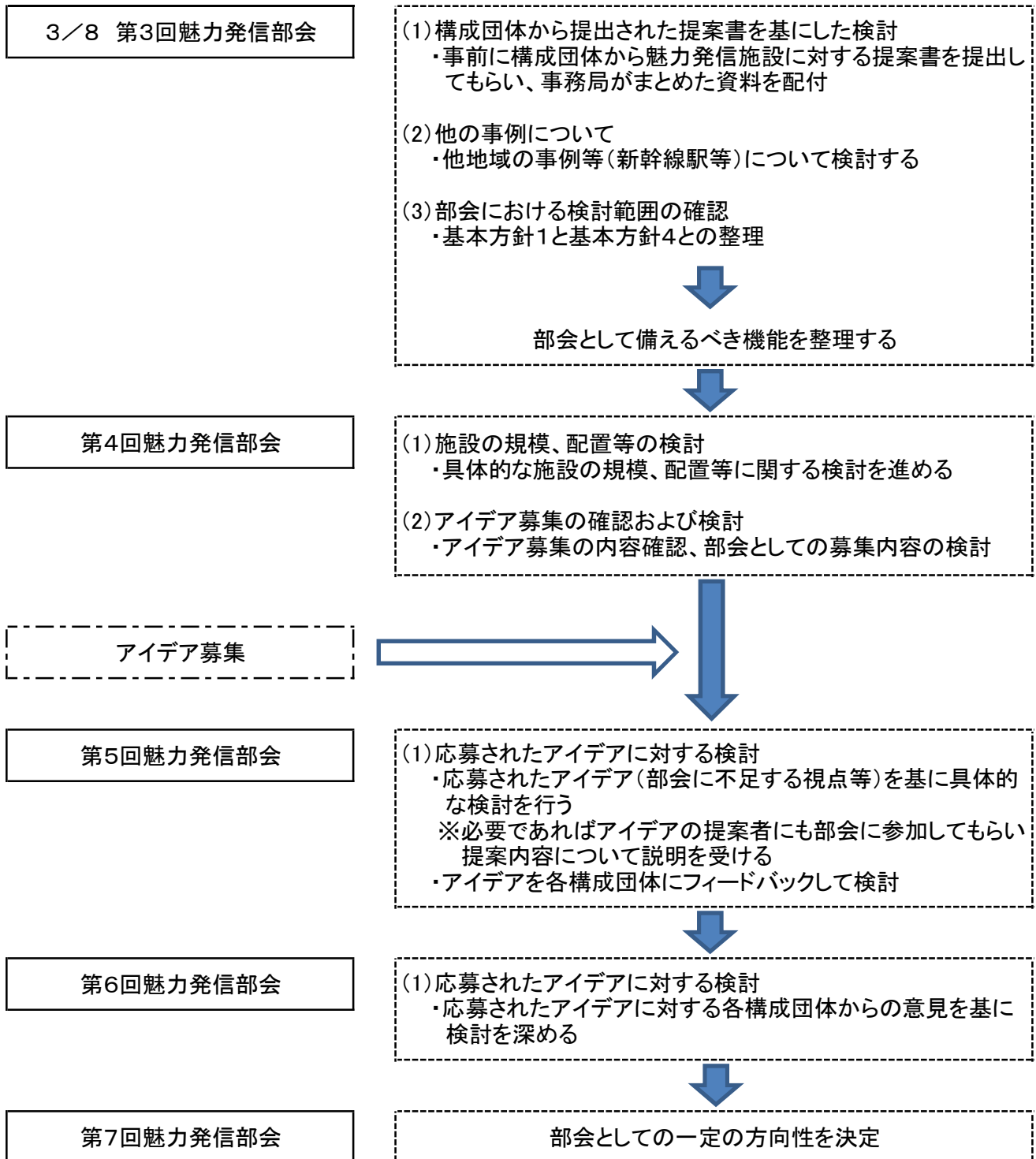
### 2 主な意見

- ・イメージとしては、大規模な屋外のイベント広場ではなく屋内の多目的なイベントブース。月替わり、週代わり、日替わりで活用できる施設であると良い。
- ・来訪者だけをターゲットにしているのは賑わいの創出は不可能。地域住民が集まり、利活用できるように考えるべきである。
- ・この地域の暮らしや農産物等を安心・安全といった切り口でアピールできると良い。観光だけでなく商業や工業も含めた総合産業として検討すべきである。
- ・ここに来て人と交わることで得られる情報を提供する多目的多機能なイベントスペース、商業スペースを充実するべき。
- ・周辺の町村にも駅の利用者に足を運んでもらえるような拠点となる施設であってほしい。
- ・リニア長野県駅と県内の各地域をつなげる連携機能を持たせるべきである。
- ・イベントなどの開催や食の充実などにより駅の魅力を創出し、駅を目的とする来訪者の獲得も検討すべきである。
- ・駅利用者と地元住民による賑わいの創出を考えると具体的には道の駅のような施設が想定されるが、整備区域内に整備するもの、高架下に整備するものなど区分けして検討すると良い。

- ・長野県全域とまではいかなくてもリニアバレー構想のエリアのものは網羅されている施設であること。
- ・産業界においても人材の確保が重要な課題であるが、いかにして人を呼び込めるかということになる。地元住民との交流から移住・定住につながるような魅力発信の場所であると良い。
- ・イベント広場を始めからつくり込んでしまうのではなく、利活用する人たちも一緒になってつくっていく部分も残しておくことが必要ではないか。
- ・リピーターの獲得を目的に時間や期間を限定して近隣地域を含めた地元の食を提供してみてもどうか。また、一度、駅を降りた人が少し滞在できる仕組みが必要である。
- ・食を切り口にすると比較的広域なエリアをPRすることができる。
- ・飯田線利用者に向けたPRも視野に入れるべきである。
- ・糸魚川では鉄道マニアや子どもを中心としたファミリー向けの鉄道関係の施設を作って評判が良い。今後の検討材料として実例を挙げてもらえるとイメージがしやすい。
- ・飯田線の模型やD51など飯田線をテーマにした施設があっても面白い。
- ・インバウンドに向けた取り組みとしてWi-fiや二次交通の整備が必要である。二次交通の整備に関しては、地元の高齢者に対しても有用である。
- ・首都圏からは電車を使ってくる人も多いため、レンタカーの充実など二次交通が大きな課題である。
- ・ターゲットが旅行者なのか、インバウンドであるのか、または地元住民であるのかを明確にすべき。
  - 当面は、対象を絞らず様々な切り口で多くのアイデアを出していただき、今後の検討において分野別、テーマ別に意見をまとめていく予定。
- ・他の事例があると検討の際に参考になる。



## 魅力発信部会の進め方



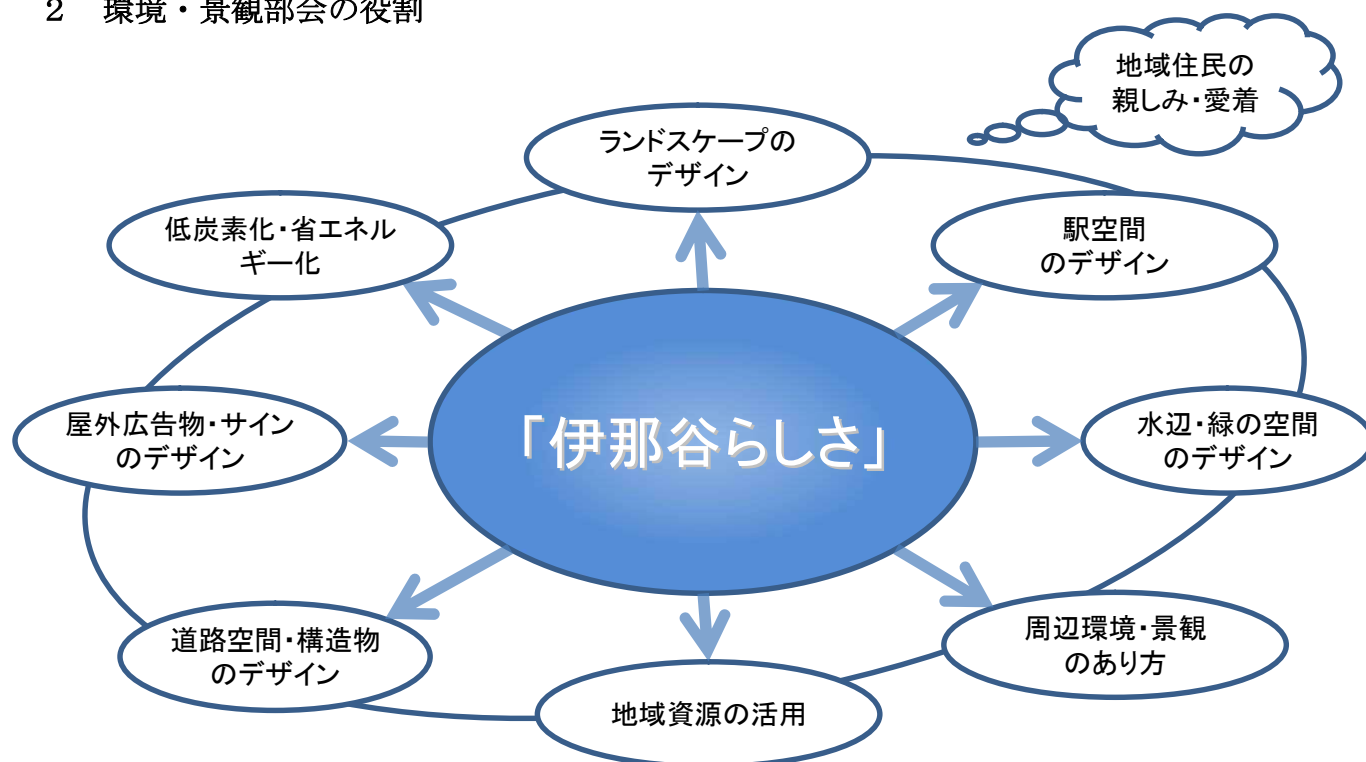


## 環境・景観部会の設置について

## 1 設置の目的

リニア長野県駅を利用する乗降客が「伊那谷らしさ」を感じるとともに、周辺住民の皆さんが親しみを感じ愛着を持てるような駅空間のデザインや周辺環境・景観の在り方、その実現手法等について検討する。併せて、リニア駅周辺における再生可能エネルギーの利用やゼロエミッション、低炭素化等の取組のあり方について検討する。

## 2 環境・景観部会の役割



- ・「伊那谷らしさ」とは何か、それを表現するためには具体的に何をなすべきか等について検討する。
- ・リニア駅舎及び整備区域内のデザインコンセプトをまとめ、環境と景観のデザインについて検討する。
- ・整備区域内における低炭素化・省エネルギー化に関する方針や「伊那谷らしさ」を特徴づける材料、地元産木材、建築様式・工法、外観などの環境と景観に関する事項について検討する。
- ・整備区域及びさらにその周辺において「伊那谷らしさ」を実現する景観規制手法・基準等の方向性について検討する。
- ・検討にあたっては、整備区域周辺の生活環境に配慮するとともに、「トランジットハブ・道路ネットワーク部会」による駐車場、交通広場、道路等の機能、規模、配置等の検討状況、「魅力発信部会」による魅力発信施設の内容の検討状況、「交流人口拡大部会」による交流人口拡大の方策と連携・整合を図る。

### 3 委員構成（案）

組織団体名	役職名	氏名	備考
一般社団法人長野県建築士会飯伊支部			
一般社団法人長野県建築士事務所協会 飯伊支部			
公益社団法人日本建築家協会関東甲信越 支部			
長野県下伊那地方事務所建築課			
長野県下伊那地方事務所環境課			
長野県飯田建設事務所整備課			
飯伊森林組合			
飯伊広告塗装事業協同組合			
特定非営利活動法人 南信州おひさま進歩			
飯田市環境審議会			
飯田市都市計画審議会			
学識経験			

事務局	
飯田市リニア推進部	
飯田市市民協働環境部	市民協働環境部長
	環境モデル都市推進課長
飯田市建設部	建設部長
	地域計画課長